

パナマ内政・外交（2022年3月定期報告）

2022年3月のパナマの内政及び外交につき、以下のとおり報告する。

【ポイント】

- 1日、カリソ副大統領は中国の新年を祝う春節祝祭に出席した。
- 10日、コルティソ大統領は、アギラル文化大臣及びカリソ外務次官等の交替を含む内閣改造を発表した。
- 保健省は28日より、屋外でのマスク着用義務に関し、人との物理的距離を1メートル以上確保できることを条件に解除する旨発表した。
- 4日付当地紙は、ゴンサレス与党PRD幹事長が党本部にて、ボイコフ駐パナマ露大使と会談したと報じた。
- 25日、コルティソ大統領はロシア・ウクライナ戦争がパナマに与える影響を検討するため、ハイレベル委員会の閣僚と会合を行った。
- 2日、ワシントンを訪れたモイネス外相はブリンケン米 국무長官と会談した。
- 3日、モイネス外相はベリーズで開催されたカリブ共同体（カリコム）・中米統合機構（SICA）首脳会議に出席した。
- 8日、モイネス外相はコスタリカで開催された第5回持続可能な開発にかかる中南米・カリブ諸国フォーラムに出席した。
- 11日、カリソ副大統領はチリを訪問し、ボリッチ新大統領の就任式に参列した。
- 21日、コルティソ大統領は第4回民主主義開発同盟に関する会合へ出席のためコスタリカを訪問し、コスタリカ及びドミニカ共和国の大統領と会談した。
- 24日から25日まで、パナマにおいて移民に関する地域会議（CRM）が開催された。
- 30日、パナマ外務省はモイネス外相がアジア歴訪（中国、ベトナム、インドネシア及びシンガポール）を行うことを発表した。
- 31日、モイネス外相はメディナ米 국무省次官補とオンライン会談を実施した。

【本文】

●内政

1 内閣改造：文化大臣及び外務次官の交替等

10日、コルティソ大統領は、アギラル文化大臣及びカリソ外務次官等の交替を含む内閣改造を発表した。アギラル文化大臣の在外への異動人事に伴い、後任として、ジセル・ゴンサレス・ビジャルエ（Giselle Gonzalez Villarrue） SerTV（国営放送局）社主を新文化大臣に任命した他、カリソ外務次官の非金融資産監督・規

制局長（経済財務省内局）への任命に伴い、後任として、マルタ・エリダ・ゴルドン（Marta Elida Gordon）外務省秘書官室長を新外務次官に任命した。

2 カリソ副大統領の春節祝祭出席

（１）１日、カリソ副大統領兼大統領府大臣は、当国の経済活性化を促進するための国家イベントである、中国の新年を祝う春節祝祭に出席した。

（２）カリソ副大統領は、パナマには少なくとも20万人以上の中国系国民がおり、全人口の約４％を占めていて、国家経済を促進するすべての部門に存在していると述べつつ、パナマ政府の熱心な後押しにより本年以降、中国の新年である春節をパナマにおける祭典の一つとして祝うことになったと強調した。なお、春節祭典は、500周年公園で開催され、カリソ副大統領のほか、各省閣僚及び次官、ガルシア・パナマ県知事及びファブレガ・パナマ市長が出席した。

3 新型コロナウイルス関連

（１）ワクチンの到着及びワクチン接種

３月、ファイザー・ビオンテック社（以下、ファイザー社）との直接契約分の児童用ワクチン26万4千ドースがパナマに到着した。３月末までに、794万5,713ドースのワクチン接種（ファイザー社及びアストラゼネカ社）が実施された。

なお、３月末までのワクチン接種率に関し、１回目ワクチン接種率は86.9％、２回目接種率は76.5％、３回目接種率は46.1％に達した他、5～11歳の１回目接種率は50.4％、２回目接種率は40.3％に達したと発表した。

（２）屋外でのマスク着用義務に関する新たな衛生措置の導入

パナマ保健省は２８日より、屋外及びオープン・スペースでのマスク着用義務に関し、人との物理的距離を１メートル以上確保できることを条件に解除する旨を発表した。ただし、60歳以上の者、慢性疾患患者、免疫抑制患者、ワクチン未接種者及びワクチン接種が不完全な者については、状況に応じて各個人でリスク評価を行い、屋外等でのマスクの使用の検討を推奨するとしている。

他方で、屋内や密閉された空間でのマスク着用義務の措置は継続する他、１メートル以上の距離を保つことが不可能な屋外（行列、コンサート会場やスタジアム等）では、セルフケアとしてマスクを使用する必要があるとしている。

また、公共交通機関、スーパー、レストラン及びバー等におけるフェイスシールドの着用義務は解除されたものの、マスクの使用義務は継続するとした。なお、公共交通機関ではマスクの正しい使用と義務化を維持しつつ、100％の定員を認めるとしている。

●外交

1 ウクライナ情勢

(1) ゴンサレス与党PRD幹事長と駐パナマ露大使との会談

4日付当地紙は、ゴンサレス与党PRD幹事長がPRD本部にて、ボイコフ駐パナマ露大使と会談したと報じた。

(2) ロシア・ウクライナ戦争に関するハイレベル委員会での協議

25日、コルティソ大統領はカリソ副大統領とともに、ロシア・ウクライナ戦争がパナマに与える影響を検討するため、モイネス外相等を含むハイレベル委員会の閣僚と会合を行った。同会合では、地政学、エネルギーの他、農牧品生産における今次紛争の影響、特にコメの生産と肥料コストに及ぼす影響の3つの問題点について協議された。

2 モイネス外相のワシントン訪問（ブリンケン米国务長官との会談の実施）

(1) 2日、ワシントンを訪れたモイネス外相は、ブリンケン米国务長官と会談した。同会談には、Brian Nichols米国务省国務次官補（西半球問題担当）及びNancy Izzo Jackson米国务省難民・移民局シニア・オフィサーが同席した。

(2) ウクライナ情勢に関し、同外相は、パナマと米国がすでに表明しているように、両国は米州機構（OAS）や国連等の多国間プラットフォームによるコンセンサスと後ろ盾に基づく行動をすることで一致している旨強調した。

(3) モイネス外相は、昨年8月、不法移民問題の対処を目的としてパナマが招集した第1回閣僚級・ハイレベル会合を踏まえて作成されたロードマップに基づく不法移民の管理における進捗状況を伝えたと述べた。また、今次会談には、パナマと民主主義開発同盟を結ぶソラーノ・コスタリカ外相及びアルバレス・ドミニカ共和国外相も同席した。

(4) なお、今次訪問において、モイネス外相はBob Menendez上院議員（上院外交委員長）、James Risch及びTim Kaine上院議員と会談した他、米州開発銀行（IDB）本部を訪れ、Mauricio Claver Carone・IDB総裁とも会談した。

3 モイネス外相のカリコム・SICA首脳会議への出席

(1) 3日、モイネス外相は、ベリーズで開催されたカリブ共同体（カリコム）・中米統合機構（SICA）首脳会議にコルティソ大統領の名代として出席した。今次会議には、パナマの他、21か国の首脳が参加した他、グテーレス国連事務総長も出席した。

(2) 今次会議では、世界的な回復が予測される2023年は、経済に刺激を与え、再建をもたらすと同時に、それぞれの社会におけるパンデミックの影響の緩和は、各国の政府の能力に基づくとする「サン・ペドロ宣言」が参加国首脳により採択された。さらに、同会議では、SICA・カリコム諸国の22か国外相による初の合同タ

スクフォースを数か月以内にパナマで開催することにつき合意した。

(3) なお、今次会合の枠組みにおいて、モイネス外相はカリブ諸国との関係強化を目的として、バルバドス、ジャマイカ及びスリナムの外相とも二国間会談を行った他、バルネット・カリコム事務局長と、新たな協力分野につき意見交換を行った。

4 モイネス外相の第5回持続可能な開発にかかる中南米・カリブ諸国フォーラムへの出席

8日、モイネス外相は、コスタリカで開催された第5回持続可能な開発にかかる中南米・カリブ諸国フォーラム（当館注）に出席した。また、今次会合参加への機会を捉え、モイネス外相は、ウジョア・エルサルバドル副大統領と会談し、中南米統合のアジェンダにおける懸案事項につき意見交換を行った。

（当館注：今次会合は3月7日から9日、CEPAL議長国であるコスタリカで開催され、アルバラード・コスタリカ大統領、モハメッド国連副事務総長及びバルセナ国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（ECLAC）事務局長の他、33か国の中南米諸国の代表者等が出席した。）

5 カリソ副大統領兼大統領府大臣のチリ新大統領就任式出席

11日、カリソ副大統領は、第34代チリ大統領に就任するポリッチ新大統領（任期4年）の就任式に参列した。また、同副大統領は就任式後の大統領府での昼食会にも出席した。なお、今次チリ訪問には、マルティネス貿易産業相及びメネセス人材育成機構（IFARHU）理事長も同行した。

6 コルティソ大統領のコスタリカ訪問（第4回民主主義開発同盟に関する会合への出席）

(1) 21日、コルティソ大統領は、第4回民主主義開発同盟に関する会合に出席するためコスタリカを訪問し、アルバラード・コスタリカ大統領及びアビナデル・ドミニカ共和国大統領と会談した。

(2) 3か国の首脳は、人権、持続可能性及び民主的価値の尊重に基づき、3か国の国民の経済成長に向けた具体的な行動を促進するために取り組んでいく強い意志につき改めて述べるとともに、同会合の成果として、政治、協力、貿易及び投資に関する対話に関する内容を含むサンホセ共同宣言を採択した。

(3) ウクライナ情勢に関し、同首脳は、ロシアの攻撃による武力行使、ウクライナの主権及び領土保全への侵害は、世界の平和及び安全に深刻な脅威をもたらし、国連憲章、国連総会決議及び国際法に違反するとして非難を表明した。

(4) 同会合には、Dante Mossi中米経済統合銀行（CABEI）総裁、Mauricio Claver Carone・IDB総裁、Sergio Dias Granadosアンデス開発公社（CAF）総裁も出席し

た。今次訪問には、パナマ側より、モイネス外相、アレクサンダー経済財務大臣及びマルティネス貿易商工大臣等も同行した。なお、次回の第5回民主主義開発同盟に関する会合は、本年9月の第77回国連総会に合わせて開催が予定されている。

7 移民に関する地域会議（CRM）の実施

（1）24日から25日、パナマにおいて、移民に関する地域会議（CRM：Conferencia Regional sobre Migracion、以下「CRM」）が開催された。

（2）24日、ゴルドン外務次官はCRM加盟国等の代表者ととともに、（コロンビアとの国境地帯で移民が流入する地域）ダリエン県を視察した。

（3）25日、パナマ外務省において行われた会議では、モイネス外相の他、米、加、墨、ベリーズ、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス及びドミニカ共和国等のCRM加盟国及び国際機関等より、ハイレベルの代表者が出席し、責任の共有の原則の下、域外からの不法移民、移民の不法取引及び人身売買対策に対処するためのグット・プラクティスにつき意見交換が行われた。

（4）今次会議には、Michele Klein-Solomon国際移住機関（IOM）北米・中米・カリブ地域局長、Isabel Marquez国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）米州地域次長、Carlos Perez国連薬物犯罪事務所（UNODC）の犯罪防止及び刑事司法オフィサーも出席した他、各国より外務次官や移民局長等が出席した。

8 モイネス外相のアジア歴訪に関する事前プレスリリースの発出

（1）30日、パナマ外務省は、モイネス外相が4月4日よりアジアを歴訪し、パナマが二国間関係の強化と投資促進を期待する中国、ベトナム、インドネシア及びシンガポールの順に訪問する旨発表した。

（2）なお、次回のアジア歴訪では、2022年当初に発表した戦略計画とアジア地域への焦点とした戦略を遂行するため、韓国と日本への訪問を予定している。

9 モイネス外相とメディナ米国務省次官補とのオンライン会談の実施

（1）31日、モイネス外相は、メディナ米国務省次官（海洋・国際環境科学担当）とオンラインにて会談し、東部熱帯太平洋海洋回廊の保全にかかる共通の関心事項につき意見交換を行った。

（2）4月、パナマはコスタリカ、コロンビア及びエクアドルが加盟する（SICA）議長国（当館注：2022年上半期、パナマはSICAの議長国を務めている。）の期間中に同4か国外相を保安全管理に関する会合への参加を招待する。

（了）